



大社 啓二  
代表理事・会長

## ご挨拶

初夏の日差しを感じる頃となりましたが、会員の皆様には、いかがが過ごでしょうか。

年号が平成から令和と変わり、新しい時代を様々な思いでお迎えることでしょう。世界の国々で人々が交流して平和で安心して暮らせる時代を願うものです。

当協会ではこれまでにハンブルグ独日協会、リューネブルグ独日協会との間で形式に拘らず友好関係を築いて参りました。義務的な交流事業という決め事ではなく、人と人との交流や両国の文化を理解し合うことにより、絆を深めて行くことを心がけて参りました。この度、ご縁を頂きバイエルン(ミュンヘン)独日協会とのパートナーシップを結ぶこととなりました。

会員の皆様はよくご存知のことと思いますが、ミュンヘンは、人口約150万人のバイエルン州の州都です。1972年にはオリンピックが開催され、毎年9月末から世界最大のビールの祭典オクトーバーフェストが開かれる世界でも広く知られた都市です。サッカーのお好きな方には、世界で成功しているサッカークラブの一つであるFCバイエルンミュンヘンの本拠地としても有名です。私にとっては、そのFCバイエルンミュンヘンとの業務提携やソーセージの調査や商品開発にて何度も訪れた思い出の多い都市でもあります。

このパートナーシップは、当協会の会員にバイエルン州、あるいはミュンヘンに所縁のあるものが多いということ、昨年の総会でバイエルン独日協会のシェーン会長から心温まるご挨拶を頂いたことなどから両協会間で一層の交流を図るためにもパートナーシップを結んでどうかと当協会の理事会で提案があり、先方に打診したところ快諾され、この度パートナーシップを結ぶこととなりました。

このパートナーシップを記念して5月24日(金)19時から東梅田教会にて、その記念のコンサートを開催いたします。バイエルン独日協会の理事でプロのギター奏者であるヴィリー・フーバーさんのギター。全国各地で演奏活動を展開する大阪出身の林はるかさんのチェロ。そして林そよかさんのピアノ。それぞれが奏でる演奏会により、令和の日独文化交流の新しい幕開けとなります。本年4月1日からドイツのフラッグエアーであるLufthansaが、関空ーミュンヘン直行便を就航させており、これからの世代が、ドイツ各地と更なる繋がりを広げることに期待しております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝願うと共に、今後も引き続き協会へのご協力をよろしくお願いたします。

## BREXITがもたらす「西洋の没落」

### 神余隆博

関西学院大学教授  
(元駐ドイツ大使)



### 【決められない政治の英国】

英国は2016年6月23日の国民投票において僅少差(離脱賛成52%、反対48%)で離脱を決定した。当時私はベルリンにいたが、シュタインマイヤー外務大臣が「EUにとって最も悲しい日」と述べていたことを思い出す。その後、英国はEUと離脱交渉を行い、2018年11月に離脱協定と将来の関係を謳う政治宣言が合意された。離脱期限は2019年3月29日とされた。

しかし、離脱協定はアイルランドと英国(北アイルランド)との国境での措置をめぐる英国議会下院において3度にわたり大差で否決されたため、EUと協議し、離脱期限が2度延長されている。4月10日の欧州理事会(首脳会議)で、英国が欧州議会選挙(5月23日)に参加する限り最長で10月31日まで離脱期限が延長されることが決定された。欧州議会選挙に参加しない場合は、5月31日に離脱期限が到来し、「合意なき離脱」という最悪の結果となる。折しも5月2日の英地方選挙で保守・労働の2大政党が大敗した。これを機にメイ英国首相は野党労働党と協議を行って、離脱協定で合意するとともに議会で承認を得た上で、できるだけ早く離脱(遅くとも10月31日)するとの方針で臨んでいる。英国内でも他のEU加盟国でも決められないBREXIT騒動に食傷気味で、議会制民主主義の本家の英国はいまや民主主義の反面教師となっている。

### 【BREXITの経済的影響】

英国は、本年10月31日までにEUとの「合意ありの離脱」を目指すものと思われるが、最悪の「合意なき離脱」の場合、英国のGDPは7.8%減少し、EU域内のGDPは1.5%減少、世界の雇用の0.7%(100万人以上)が失われるとのIMFの予測がある。EU域内で第2の経済大国の英国を失うことはEUの政治的、経済的影響力の低下につながり、「西洋の没落」をもたらしかねない。

### 【EU内の不協和音とメルケル首相のレームダック化】

このBREXITを契機としてEUの分裂をもたらすような動きが生じている。最も心配されるのは独仏の不協和音(マクロン大統領はEUの改革と大統領はEUの改革と統合の推進が必要、メルケル首相は現状で十分として独仏協調に陰りが生じている)であるが、ドイツ・メルケル首相のCDU(キリスト教民主同盟)党首辞任に伴うレームダック化により、ドイツがリーダーシップを発揮し難い状況が生じている。さらに、フランス内政の混乱(黄色いヴェスト運動等)、イタリアのEUとの政治論争(財政、移民問題)、スペインのEU懐疑政党の躍進、東欧諸国(ハンガリー、ポーランド等)のEU離れ等がこれに拍車をかけている。このままでは、5月23～26日の欧州議会選挙で既存勢力の過半数割れと反EU勢力の伸長が予想され、EU衰退の幕開きとなる。

### 【日本の対応】

徐々に分裂傾向にある欧州にくさびを打ち込んでいるのは中国であり、「一帯一路」構想へのギリシャ、イタリアの本格参加によりEUの結末に赤信号がともっている。このような欧州に対し日本はどう対応すべきであろうか。すでに日本はBREXITに関しては英国・EU双方に、開かれた欧州の維持・自由貿易体制の旗振り、予見可能性の確保、きめ細やかな対応、ビジネス環境の維持、急激な変化の緩和等を要請している。これに加え、戦略的には以下のような共同行動をとることが考えられる。6月28、29両日のG20大阪サミットの機会にでも大いに話し合ってもらいたいものだ。

- ① 日本と世界の利益のために、ドイツやフランスと協力して自由で民主的な秩序を守り、保護主義に対抗
- ② 日・EU EPAの推進、WTOの改革、TPP11への英国の参加を後援
- ③ 英国の孤立と中国への傾斜を防ぐ(武器技術の対中移転抑止)ための方策



ご挨拶(大社会長) 2

Brexitがもたらす「西洋の没落」(神余副会長)

### News

ドイツ大使館秋祭りレポート①・② 4

特別講演「海外での体験は未来への投資」  
第3回ナレッジセミナー

2018年度クリスマス会・新年会  
全国日独協会連合総会 5

### Bericht

総領事館訪問「総領事館を知ろう!」 6

グリーンワルト財団・第17期生のご挨拶 8

### Vorstellung

新入会員様紹介 10

編集後記 14